つながる

学校と家庭の学び

思いやりの心と知的好奇心を育む「弁当の日」

岐阜県美濃加茂市立蜂屋小学校

美濃加茂市立蜂屋小学校では、児童の食への関心や知的好奇心を高めようと、5・6年生が自分で作った弁当を持参する日を設けている。保護者と一緒に献立を考えたり、調理したりすることで、家庭でのコミュニケーションが深まるきっかけにもなっている。

複数の弁当作りのコースを設け楽しく参加できるように配慮

岐阜県の南部に位置する美濃加茂市立蜂屋小学校では、2009年度から、5・6年生で、給食の代わりに児童が家で作った弁当を持参して食べる「弁当の日」を年に数回設けている。これはPTAが学校に提案して始まった取り組みで、坂井哲前PTA会長は、そのねらいを次のように説明する。

「最終的な目標は、将来、自炊できる生活力を身に付けることです。その第一歩として、自分で食事を作ることの楽しさを知り、『自分にも出来た』という自信を付けてほしい。そして、家族や周囲の人に感謝や思いやりの気持ちを持って接することの大切さを学んでほしいのです。食事は、自分や家族が生きるために必要なことなので、そうした大切さを実感しやすいと思いました」

弁当作りは、①すべて児童が調理する「完璧コース」、②保護者と一緒におかずを作る「おすすめコース」、③児童が自分でおにぎりを作り、おかずは保護者に作ってもらう「基礎コース」がある。児童は自分に合った好きなコースを選ぶ。あまり堅苦しく構えず、子どもにとって楽しい取り組みにすることを優先したためだ。どのコースであっても、献立作りや材料の買い物は保護者と一緒に行うなど、学校とPTAが、保護者のサポートを呼び掛けている。

「弁当の日」は、09年度は3学期に2回行われた。10年度は10月以降に3回行う予定で、食中毒予防のため、暑い季節には実施しない。共働きの家庭でも時間が取りやすい日曜日に準備が出来るよう、月曜日に設定し、当日は給食がないので、担任も自作の弁当を持参する。

学校は、PTAからの提案を快く受け入れた。「弁当の日」には給食を止める必要があるが、そのための申請手続きなどに協力した。

渡邉由美子校長は、「弁当の日」に関するPTAとの役割分担について、次のように話す。

「学校は、家庭科の授業で食に関する知識や技能を教えますが、それを定着させるためには、家庭での実践が必要です。弁当作りはその実践の一つですから、PTAが主体的に

進め、学校が協力する現在のスタイルが適していると考えています」

友だち同士のおかずの交換が相手への思いやりを育む

事前準備として、学校からの案内や学級通信などで家庭に告知し、子どもが弁当を忘れないようにした。また、手作りしたいが何を作れば良いのか分からない子どもがいるはずだと考え、家庭科でアスパラのベーコン巻きや粉ふきいもなどの作り方を取り上げた。

第1回の「弁当の日」は、「完璧コース」「おすすめコース」を選ぶ児童が約9割を占めた（P.30図1）。09年度に6年生を担任した髙木健太郎先生は、当日の児童の様子を次のように説明する。

「クラスでは、『先生もお弁当を作るから、みんなも頑張って作っておいで』と呼び掛けました。『基礎コース』を選ぶ子どもが多数いるだろうと思っていましたが、中には、朝4時に起きておかずを作ったという子どももいて、予想以上の頑張りを見せてくれました。家庭科で習ったメニューを作ってきた子どももいました。同じメニューでも、子どもによって仕上がりが違い、表現力や個性が表れます。食事中は友だち同士でおかずを交換し、大変だった点や工夫した点について話し合っていました。弁当作りの大変さを体験したからこそ、友だちが一生懸命作ったおかずをくれた時の嬉しさは格別です。自然と、自分もお返しをするという、相手への思いやりを育む機会となっています。また、友だちのおかずを見ることで、作り方を知ろうとしたり、『今度は自分もこんなおかずを作ろう』という気持ちが起こったりするようです」

実際、1回目と比べて2回目の方が、「完璧コース」を選ぶ児童の割合が増加したという。更に、保護者の心境も変化した。

炊き込みご飯や、きんぴらごぼう、とんかつなど、内容の多彩さに、児童の積極性が表れている。児童は、おかずを交換しながら、味つけのこつなどを話し合った

教師も弁当を持参する。「私が作ったのは、1回目はチャーハン、2回目はカレー。子どもへの分けやすさを考えて決めました」（髙木先生）弁当を忘れた児童が6年生で1人いたが、担任の弁当を渡して対応した

SCHOOL DATA

岐阜県美濃加茂市立蜂屋小学校

◎1873（明治6）年創立の歴史ある学校。2009年度より、食を通じて子どもの創造力・表現力を育もうと、弁当を自作する「弁当の日」を設ける。

校長　渡邉由美子先生
児童数　373人
学級数　15学級（うち特別支援学級2）
所在地　〒505-0004
岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 11
TEL　0574-25-2904
URL
http://www.city.minokamo.gifu.jp/school/hachiya/

美濃加茂市立蜂屋小学校校長
渡邉由美子
Watanabe Yumiko
「ひたむきな営みを続ける先に、やっと美しい花が咲く」

美濃加茂市立蜂屋小学校
髙木健太郎
Takagi Kentaro
6学年担任
「勉強、生活両面で中学校につながる教育を目指す」

美濃加茂市立蜂屋小学校
天野賢次
Amano Kenji
2010年度ＰＴＡ会長
「何事にも自発的に取り組む子どもを育てたい」

美濃加茂市立蜂屋小学校
坂井　哲
Sakai Satoshi
2009年度ＰＴＡ会長
「他者を思いやる心を育みたい」

「当初は、『弁当の中身によっていじめが起きるのではないか』『忙しい朝に余計なことを増やしたくない』など、反対する保護者もいました。しかし、実施後は『買い物や献立づくり、調理を一緒に出来て楽しかったし、子どもとの会話が増えた』『子どもも楽しそうだった』という声が多く寄せられました」（天野賢次PTA会長）

渡邉校長は、今後の取り組みについて次のように話す。

「保護者を動かす最大の力は、子どもの頑張りや達成感に満ちた笑顔です。『弁当の日』は、子どもに生きる力や思いやりの心を育むと同時に、保護者としてどうかかわるのか、その在り方を考える機会でもあると思っています。本校に在籍する栄養教諭の指導も生かしながら、常に料理する楽しさを感じられるような工夫をし、子どもも保護者も教師も育つ『弁当の日』を目指したいと考えています」

図1　第1回「弁当の日」アンケート調査結果（2010年1月実施）

Q1　どのコースにチャレンジしましたか?

学年	人数	A. 完璧	B. おすすめ	C. 基礎	D. 行わなかった
5年生	56	15	40	1	0
6年生	59	16	31	10	2
合計	115	31	71	11	2
		27%	62%	9%	2%

Q2　作ってみてどうでしたか?

学年	人数	とても良かった	良かった	どちらでもない	良くなかった	とても良くなかった
5年生	56	29	22	5	0	0
6年生	59	19	25	12	0	3
合計	115	48	47	17	0	3
		42%	41%	15%	0%	2%

Q3　もう一度やってみたいですか?

学年	人数	とてもやりたい	やりたい	どちらでもない	やりたくない	とてもやりたくない
5年生	56	19	22	14	1	0
6年生	59	12	15	24	5	3
合計	115	31	37	38	6	3
		27%	32%	33%	6%	2%

「やって良かった」という声

- 「実際に自分でお弁当を作ってみて、お母さんの大変さがよくわかりました」（5年女子）
- 「今回はB（おすすめ）コースだったので、次回はA（完璧）コースをやってみたい」（5年男子）
- 「自分はもう卒業するけど、こういう取り組みはぜひ続けるべきだ。ふだんご飯を作る人の大変さとすごさが分かると思う」（6年男子）
- 「初めて（家族と）いっしょにお弁当を作った。とても楽しかった。またやりたい」（6年女子）

「やりたくない」という声

- 「思ったより大変だった」（5年男子）
- 「とても大変だった」（6年男子）
- 「朝は準備が大変だからやりたくない」（6年男子）

学校&家庭 学び応援プロジェクト

ベネッセは、『学校&家庭　学び応援プロジェクト』を実施しています。

11月から受付開始予定!

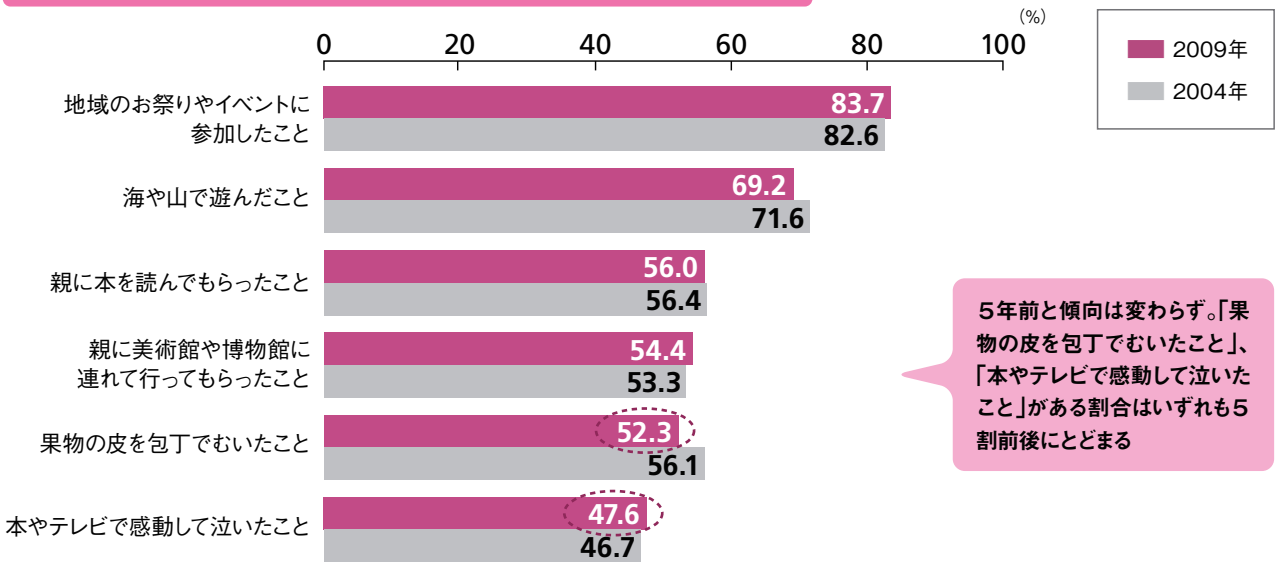
第2弾のテーマ
「知的好奇心」
①保護者向け無料冊子
②学校向け宇宙種栽培キット
＊②は学校に1セット

ベネッセは2007年度から「家庭学習に関する冊子」などを先生方やご家庭に無料で提供する「学び応援プロジェクト」を実施しております。2009年度は、のべ約8,200校から約125万冊ものお申し込みをいただきました。
2010年11月には、「知的好奇心」をテーマとして、①保護者向け「無料冊子」②学校向けに「宇宙種栽培キット（学校に1セット）」のお申し込み受け付けを開始する予定です。貴校の教育活動にぜひお役立て下さい。
＊スペースシャトルの帰還時期・状況によっては、「宇宙種栽培キット」のお届けが遅くなる（またはお届け出来ない）場合がございます。ご了承ください。

学校&家庭 学び応援プロジェクト ホームページ
http://www.benesse.co.jp/manabiouen/

「読み聞かせ」「保護者と美術館等に行く」経験があるのは5割強

小さいころから今までの経験（小学4～6年生）



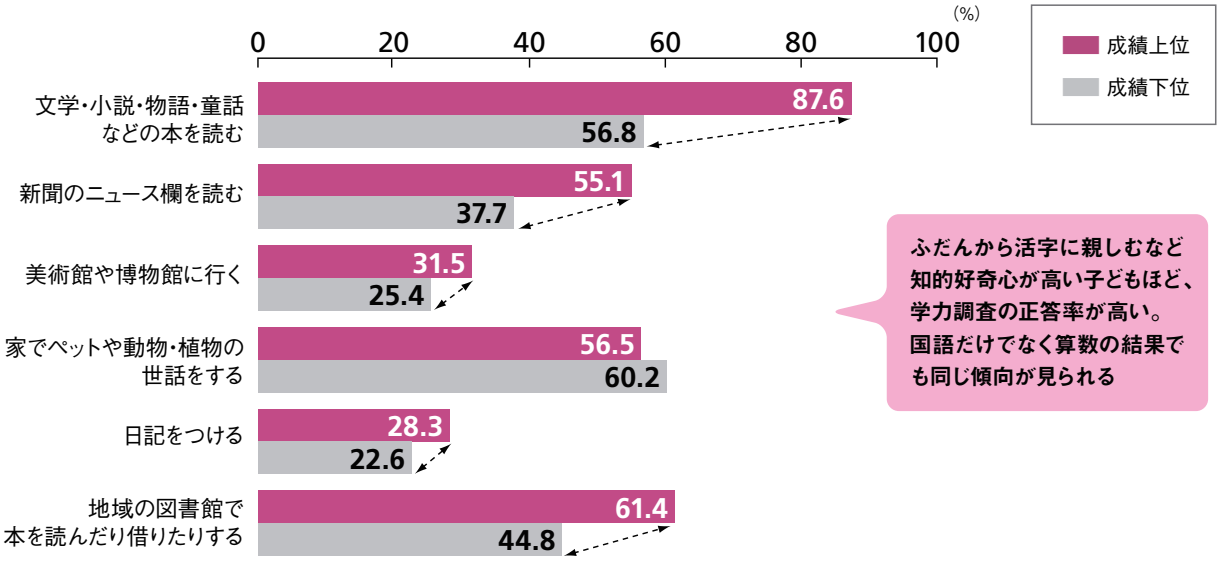
5年前と傾向は変わらず。「果物の皮を包丁でむいたこと」、「本やテレビで感動して泣いたこと」がある割合はいずれも5割前後にとどまる

注）値は「たくさんあった」「ときどきあった」の合計

出典：Benesse教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査」
調査時期は2009年8月～10月、調査対象は全国の小学4年生～高校2年生（うち小学生は3,561人）、調査方法は学校通しの質問紙による自記式調査

知的好奇心が高い子どもは学力が高い

日常生活の中での「学習」と成績の関係（小学5年生・国語）



ふだんから活字に親しむなど知的好奇心が高い子どもほど、学力調査の正答率が高い。国語だけでなく算数の結果でも同じ傾向が見られる

注）数値は「よくする」と「ときどきする」の合計。サンプル数は上位490名、下位437名

出典：「第4回学習基本調査・学力実態調査」Benesse教育研究開発センター
調査時期は2006年11月、調査対象は、「第4回学習基本調査・国内調査」の対象者のうち、小学5年生2,446人、中学2年生1,723人。調査方法は学校通しによる自記式調査（テスト）

上記の関連データはコチラ！
http://benesse.jp/berd/
＊「調査・研究データ」コーナーをご覧ください